

第2章 障害者を取り巻く現状

1. 障害者数の現状

本町における障害者数は875人で、障害種別の内訳は身体障害者が750人、知的障害者が93人、精神障害者が32人となっています（平成18年10月1日現在）。

年齢別障害者数の現状

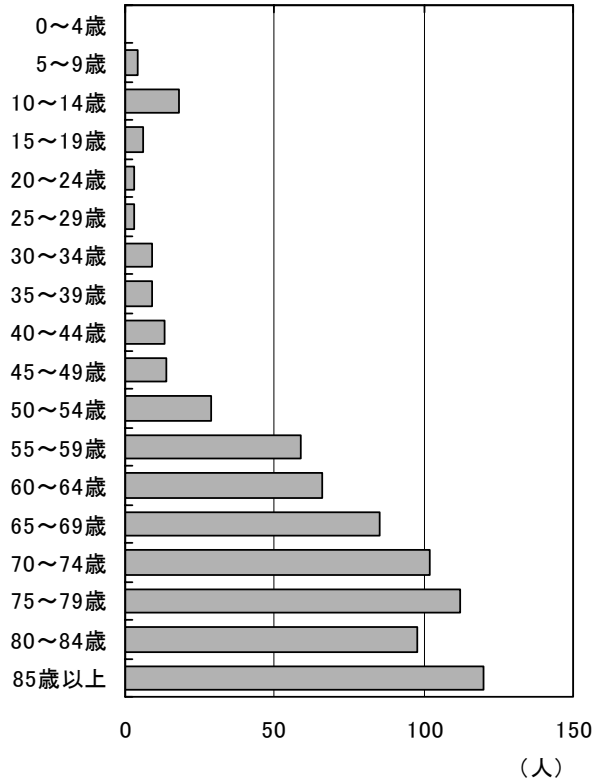
年齢	身体障害者			知的障害者			精神障害者			障害者		
	男	女	身体計	男	女	知的計	男	女	精神計	男	女	総計
0～4歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5～9歳	3	1	4	3	0	3	0	0	0	6	1	7
10～14歳	15	3	18	8	0	8	0	0	0	23	3	26
15～19歳	3	3	6	5	6	11	0	0	0	8	9	17
20～24歳	2	1	3	5	0	5	0	0	0	7	1	8
25～29歳	3	0	3	3	5	8	1	0	1	7	5	12
30～34歳	6	3	9	5	4	9	2	0	2	13	7	20
35～39歳	5	4	9	4	4	8	0	4	4	9	12	21
40～44歳	8	5	13	2	3	5	1	2	3	11	10	21
45～49歳	7	7	14	3	2	5	2	1	3	12	10	22
50～54歳	18	11	29	4	4	8	1	1	2	23	16	39
55～59歳	34	25	59	7	3	10	7	1	8	48	29	77
60～64歳	24	42	66	2	2	4	4	1	5	30	45	75
65～69歳	45	40	85	1	2	3	0	2	2	46	44	90
70～74歳	65	37	102	4	2	6	1	1	2	70	40	110
75～79歳	55	57	112	0	0	0	0	0	0	55	57	112
80～84歳	40	58	98	0	0	0	0	0	0	40	58	98
85歳以上	40	80	120	0	0	0	0	0	0	40	80	120
総計	373	377	750	56	37	93	19	13	32	448	427	875

※平成18年10月1日現在。

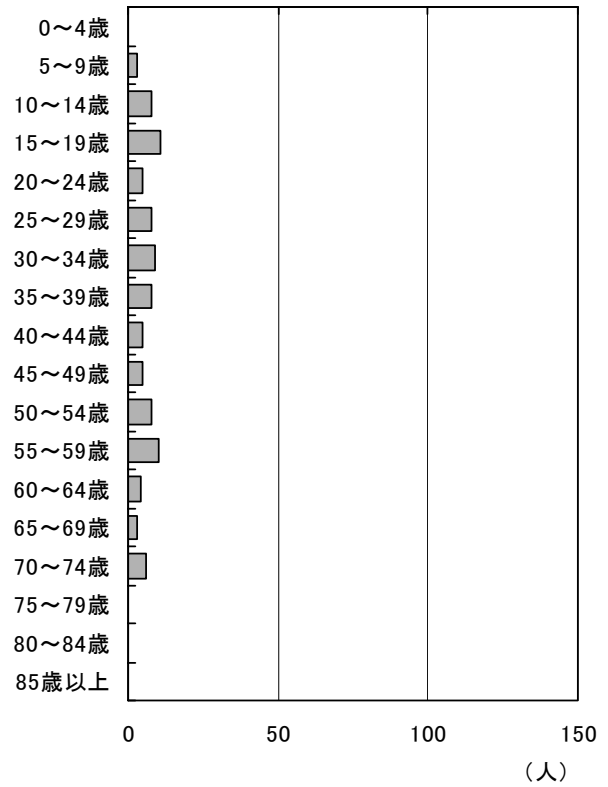
年齢別にみると、身体障害者については高齢者を中心とする年齢構造となっています。

知的障害者及び精神障害者については、身体障害者ほどの年齢構造上の特性は見られませんが、いずれも身体障害者の年齢構造に比べると比較的若い年齢層を中心とした分布となっています。

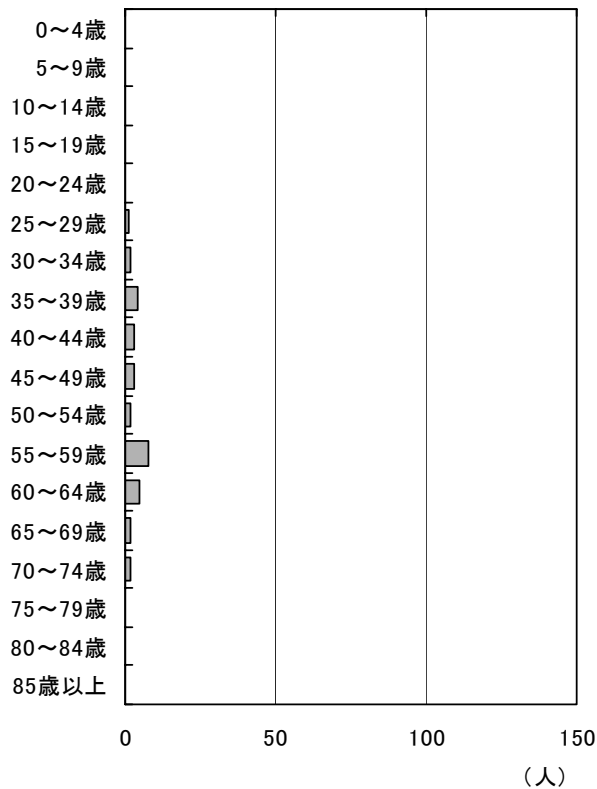
年齢別身体障害者数（計750人）



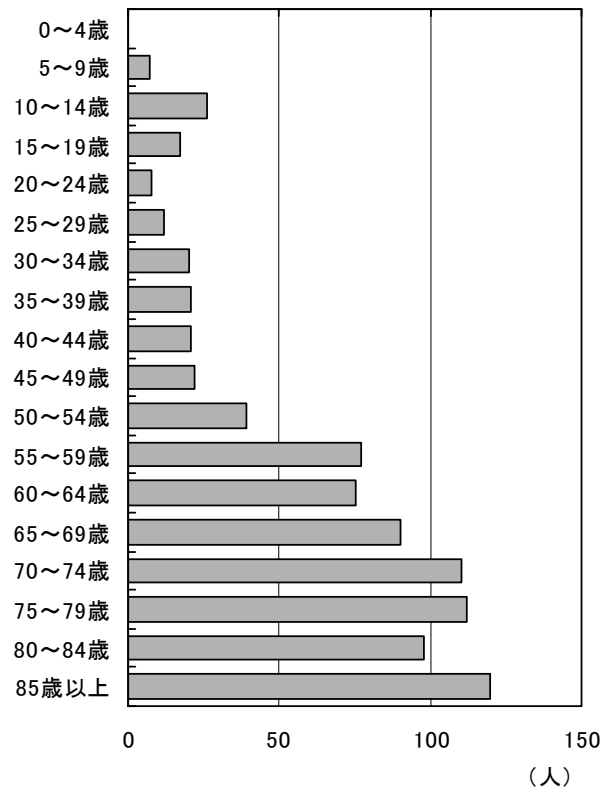
年齢別知的障害者数（計93人）



年齢別精神障害者数（計32人）



年齢別障害者数（計875人）



障害者数について、出現率（平成18年10月1日現在）としてみると、本町の総人口の7.9%、約13人に1人は障害者ということになります。

年代別にみると、65歳以上の高齢者では16.5%（約6人に1人）、85歳以上では30.8%（約10人に3人）が障害者となっています。

年齢別障害者出現率の現状

年齢	身体障害者			知的障害者			精神障害者			障害者		
	男	女	身体計	男	女	知的計	男	女	精神計	男	女	総計
0～4歳												
5～9歳	1.4%	0.6%	1.0%	1.4%		0.8%				2.7%	0.6%	1.8%
10～14歳	6.5%	1.3%	3.8%	3.4%		1.7%				9.9%	1.3%	5.5%
15～19歳	1.0%	1.0%	1.0%	1.7%	2.0%	1.8%				2.6%	3.0%	2.8%
20～24歳	0.8%	0.4%	0.6%	2.0%		0.9%				2.8%	0.4%	1.5%
25～29歳	1.1%		0.5%	1.1%	1.9%	1.5%	0.4%		0.2%	2.5%	1.9%	2.2%
30～34歳	2.1%	1.0%	1.6%	1.7%	1.4%	1.6%	0.7%		0.3%	4.5%	2.4%	3.5%
35～39歳	1.9%	1.3%	1.6%	1.5%	1.3%	1.4%		1.3%	0.7%	3.4%	4.0%	3.7%
40～44歳	3.3%	1.6%	2.3%	0.8%	1.0%	0.9%	0.4%	0.6%	0.5%	4.5%	3.2%	3.8%
45～49歳	2.2%	2.1%	2.2%	0.9%	0.6%	0.8%	0.6%	0.3%	0.5%	3.8%	3.1%	3.4%
50～54歳	4.7%	2.8%	3.7%	1.0%	1.0%	1.0%	0.3%	0.3%	0.3%	6.0%	4.0%	5.0%
55～59歳	6.8%	4.8%	5.7%	1.4%	0.6%	1.0%	1.4%	0.2%	0.8%	9.6%	5.5%	7.5%
60～64歳	6.5%	8.7%	7.7%	0.5%	0.4%	0.5%	1.1%	0.2%	0.6%	8.1%	9.3%	8.8%
65～69歳	11.6%	8.4%	9.8%	0.3%	0.4%	0.3%		0.4%	0.2%	11.9%	9.2%	10.4%
70～74歳	15.9%	8.7%	12.3%	1.0%	0.5%	0.7%	0.2%	0.2%	0.2%	17.2%	9.5%	13.2%
75～79歳	19.6%	15.4%	17.2%							19.6%	15.4%	17.2%
80～84歳	23.3%	18.7%	20.3%							23.3%	18.7%	20.3%
85歳以上	33.1%	29.9%	30.8%							33.1%	29.9%	30.8%
総計	7.2%	6.4%	6.7%	1.1%	0.6%	0.8%	0.4%	0.2%	0.3%	8.6%	7.2%	7.9%

※平成18年10月1日現在。

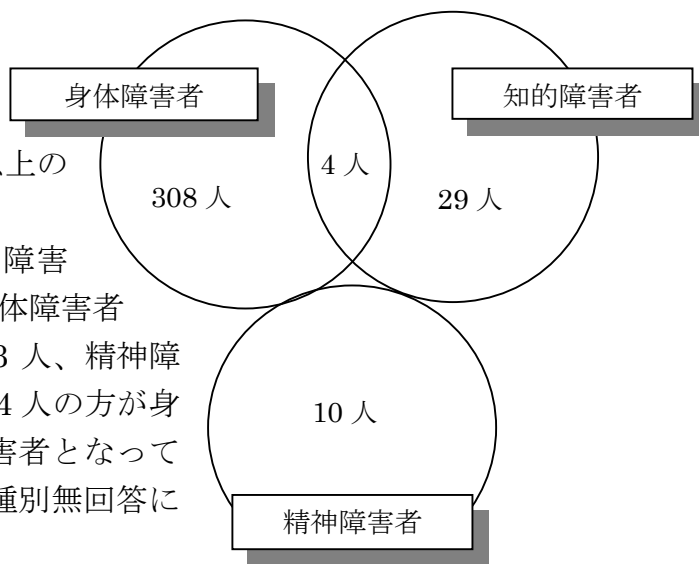
2. 障害者の実態と意向

障害者の実態と意向について、「洞爺湖町障害者アンケート調査」の結果に基づき整理すると次のとおりです。

(1) アンケート回答者のプロフィール

◇回答者 374 人の性別は女性が 50.0%、男性が 47.1%です。また、64.9%が 65 歳以上の高齢者です。

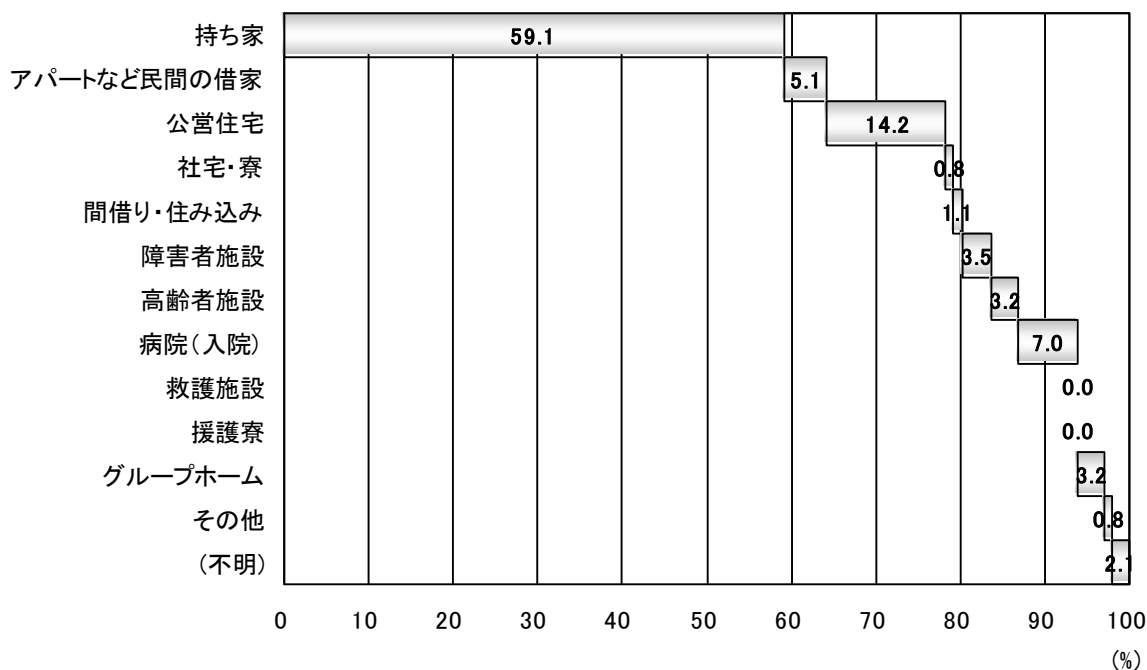
◇障害の種類を所持している障害者手帳等からみると、身体障害者が 312 人、知的障害者が 33 人、精神障害者が 10 人で、このうち、4 人の方が身体障害と知的障害の重複障害者となっています（このほかに、障害種別無回答による不明が 23 人）



(2) 日常生活について

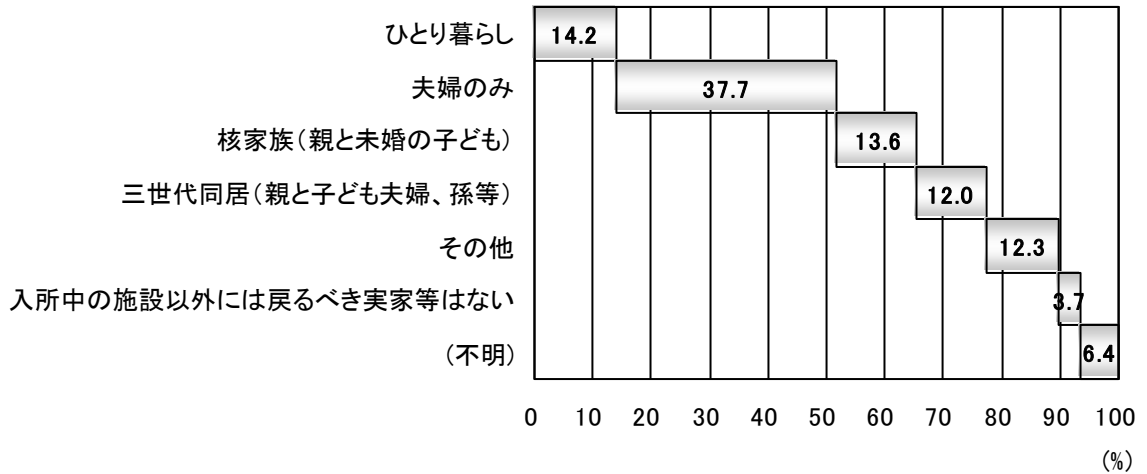
◇生活の場については持ち家が 59.1%、「アパートなど民間の借家」や「公営住宅」などを合わせた在宅での生活が 8 割以上となっています。また、14.2% はひとり暮らしです。

N=374



住居形態

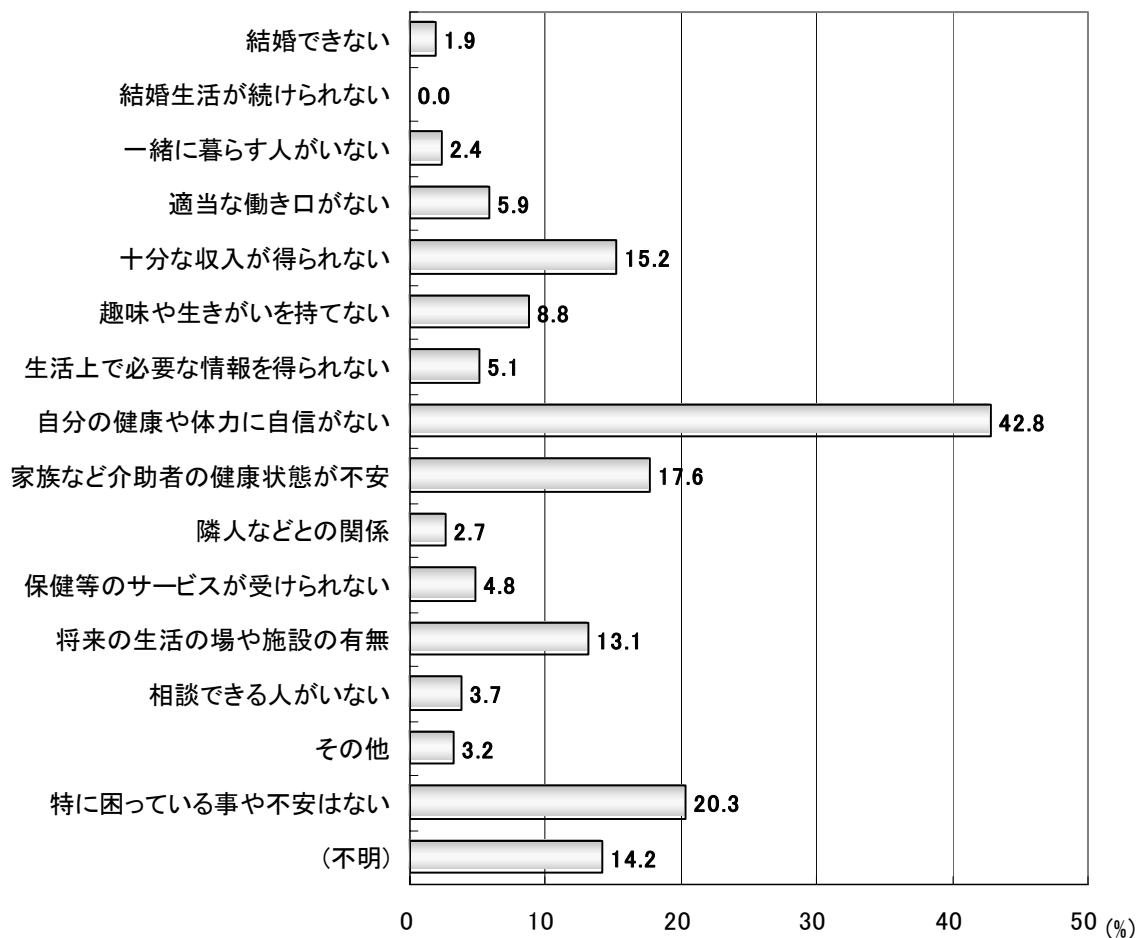
N=374



世帯構成

◇現在の生活については、「特に困っている事や不安はない」という人は20.3%に過ぎず、「自分の健康や体力に自信がない」が42.8%、「家族など介助者の健康状態が不安」が17.6%等となっています。

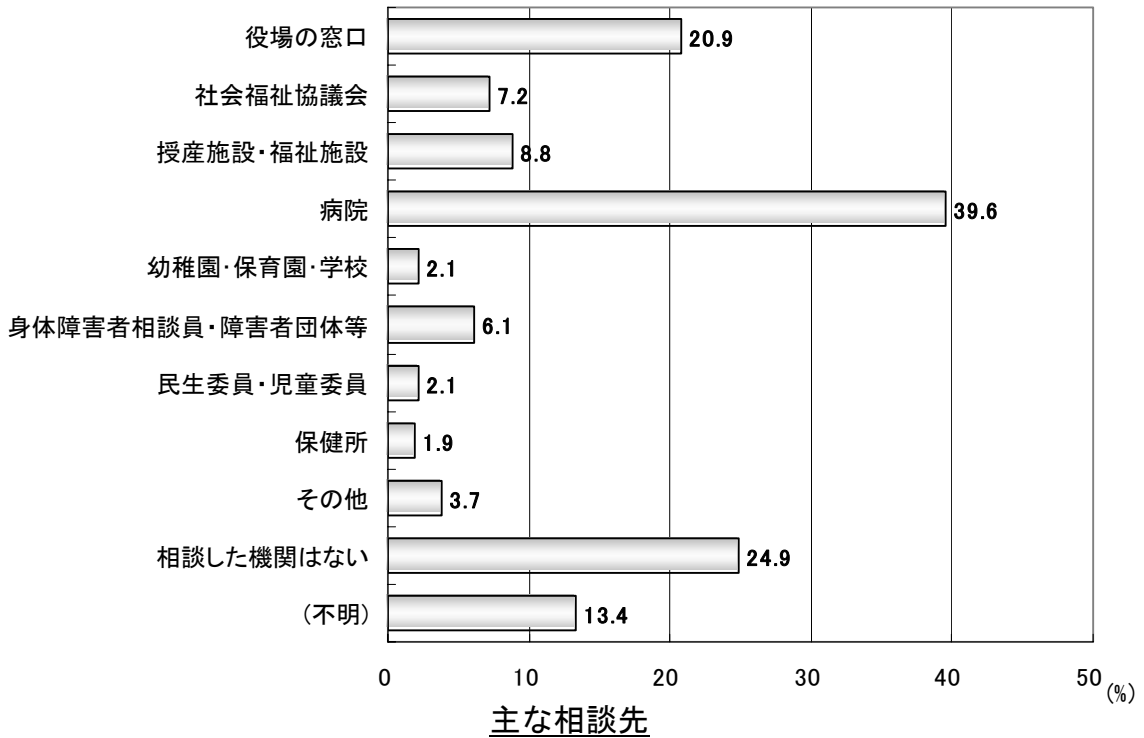
N=374



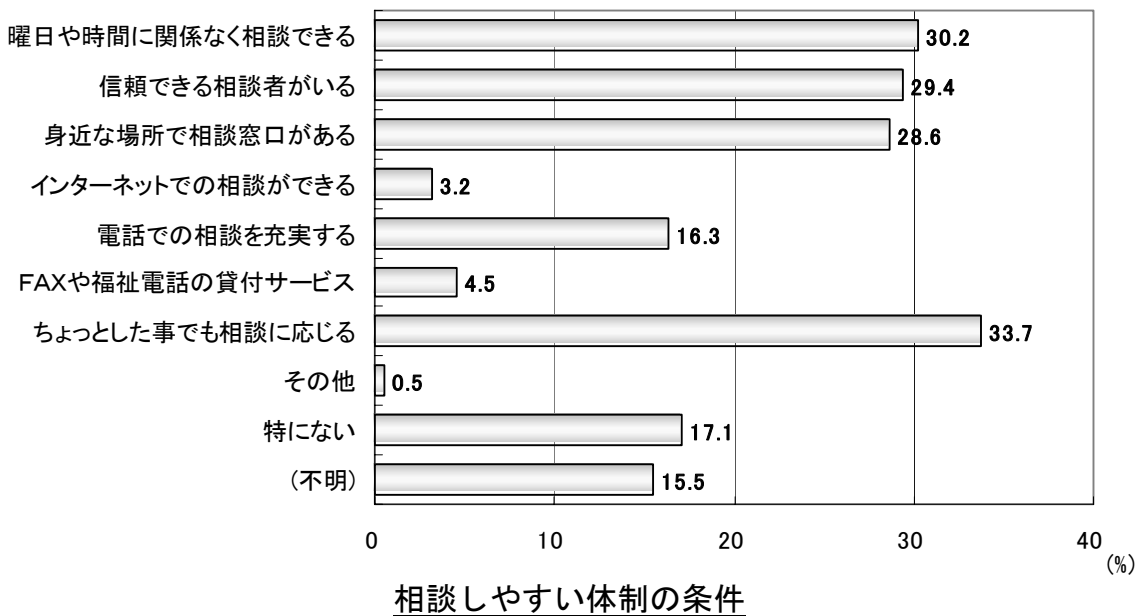
不安や悩み

◇主な相談相手としては「病院」が39.6%と最も多く、また、相談しやすい体制の条件としては、「ちょっとした事でも相談に応じる」を33.7%の人が挙げています。

N=374

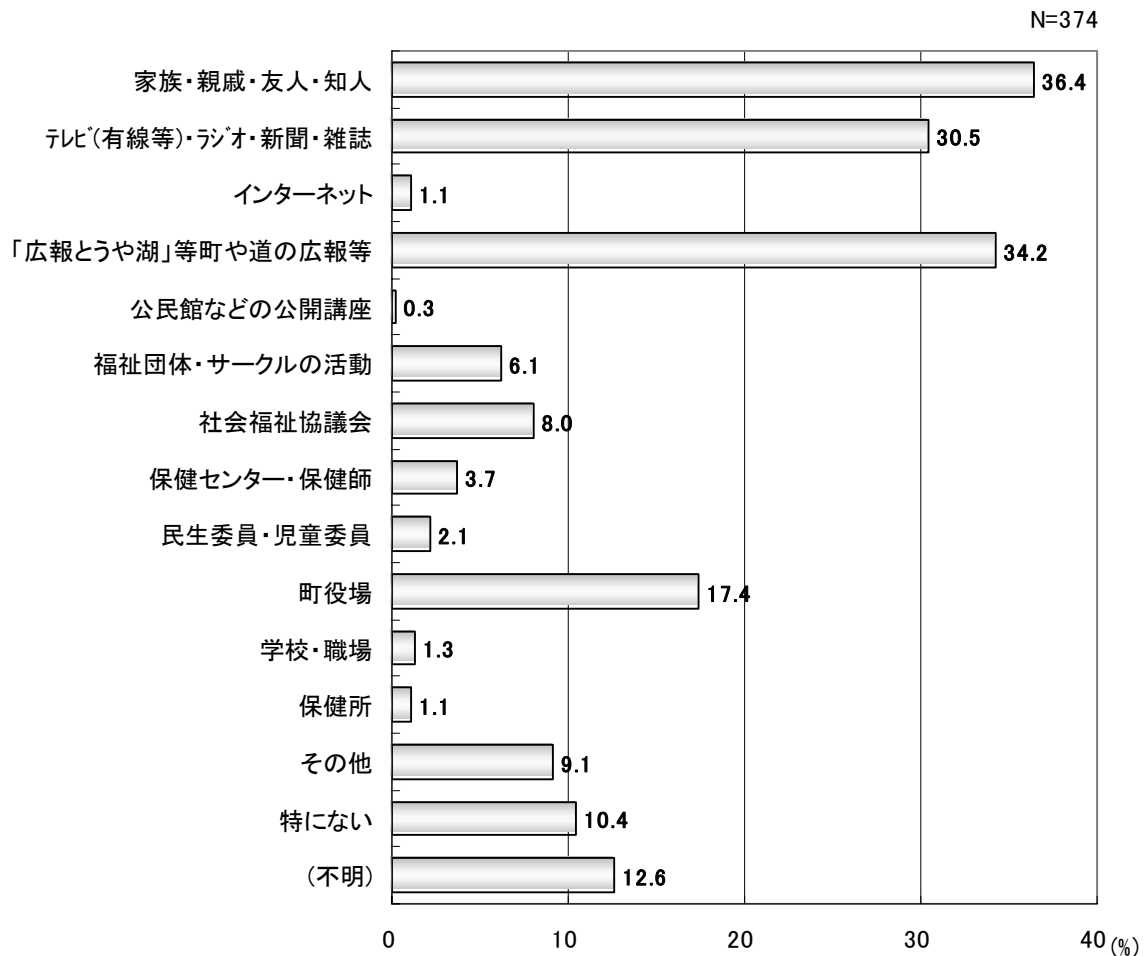


N=374



◇6割以上の方は週に1回以上は外出しており、外出目的は、「買い物」と「治療・リハビリ」が多くを占めています。外出時の交通手段は「家族などが運転する車」が41.0%で、外出時に不便なこととして「バスなどの交通機関が少ない」と感じている人が18.9%います。

◇福祉サービス情報の入手先としては、「家族・親戚・友人・知人」が36.4%と最も多く、次いで「広報とうや湖」等町や道の広報等が多く挙げられ、また、利用している通信機器は「電話」が75.1%となっています。



福祉サービス情報の入手先

(3) 災害時のことについて

◇地震などの大規模災害時に不安なこととしては「避難所生活はむずかしい」が44.9%、「病院にいけない」が32.4%となっており、また、災害時支援の登録制度があれば「登録して利用したい」と76.2%の人が考えています。

(4) 住まいについて

◇住宅対策としては、「住宅改修費の助成制度の充実」を望む人が28.3%、「ケア付住宅やグループホーム等整備」についても26.5%の人が望んでいます。

(5) 福祉サービスについて

◇障害種別に利用意向の比較的高いサービス（上位3項目）を整理すると次のとおりです。

全 体	身体障害者	知的障害者	精神障害者
居宅介護 (25.1%)	居宅介護 (26.6%)	共同生活援助 (グループホーム) (57.6%)	相談支援 (40.0%)
住宅改修費助成 (21.4%)	住宅改修費助成 (23.7%)	共同生活介護 (ケアホーム) (51.5%)	生活訓練 (知的・精神障害) (40.0%)
相談支援 (19.3%)	機能訓練 (身体障害) (18.9%)	生活訓練 (知的・精神障害) (45.5%)	就労継続支援 (30.0%)
			就労移行支援 (30.0%)
			行動援護 (30.0%)

(6) 仕事について

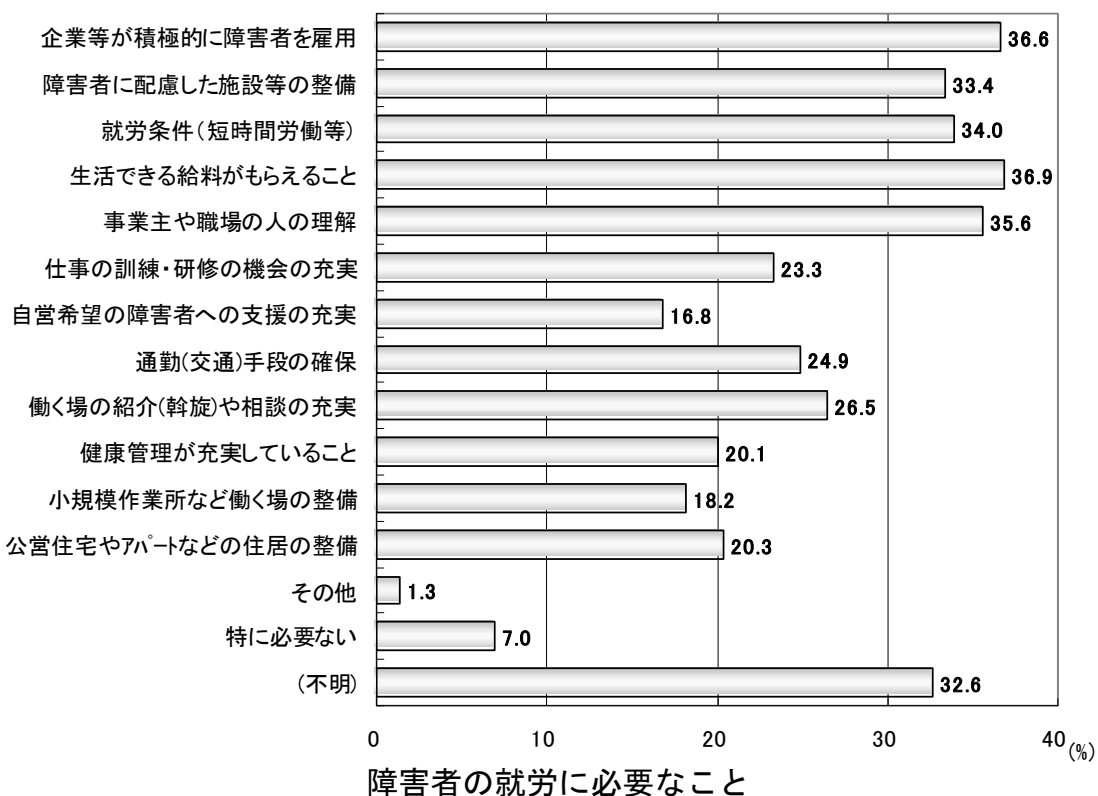
◇主な収入源は、「年金」が 82.6%と圧倒的に多く、「給与・賃金」は 10.4%です。

◇仕事をしている人は 17.9%、仕事をしていない人は 52.7%で、仕事をしていない理由としては、「病気・障害などの治療中」が 48.7%となっています。

◇仕事をしている人の 26.9%は、「農業など自営業」で、仕事上での不安や不満については「収入が少ない」が 32.8%と最も多くなっています。

◇障害者の就労に必要なこととしては、「生活できる給料がもらえること」が 36.9%、「企業等が積極的に障害者を雇用」が 36.6%、「事業主や職場の人の理解」が 35.6%となっています。

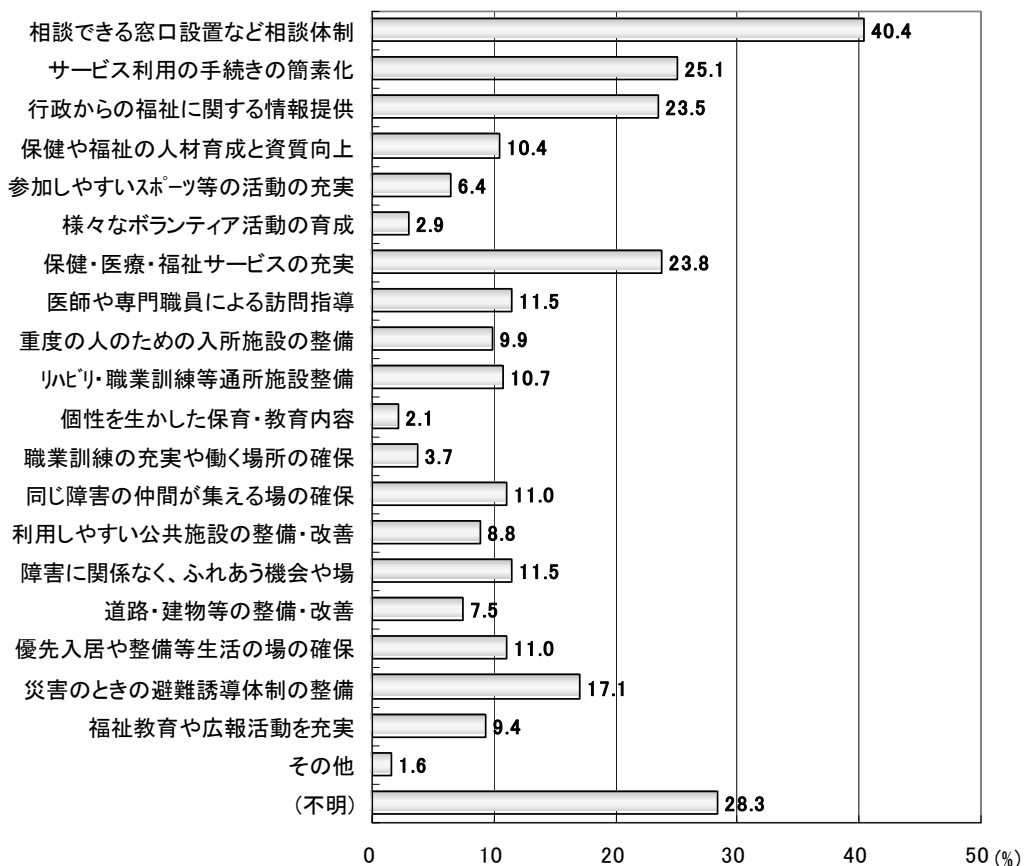
N=374



(7) 地域生活について

- ◇近所づきあいについては、「会えばあいさつする程度」が43.6%、「大変親しいつきあい」は25.1%となっていますが、「ほとんどつきあいはない」も5.3%とわずかながらみられます。
- ◇最近1年以内の活動経験は、「買い物」が42.5%で、その他「旅行」が24.1%、「地域の行事やお祭り」が23.0%と上位に挙げられていますが、「特に何もしていない」も26.2%となっています。今後の活動意向も「旅行」が34.0%、「買い物」が31.6%と上位となっていますが、「特にない」も24.6%を占めています。
- ◇差別や偏見等を感じたことがある人が24.9%、そうしたことを感じる場面としては「外での人の視線」47.3%、「隣近所づきあい」30.1%等が多く挙げられています。
- ◇障害者の地域や社会参加への一般の理解は、「どちらともいえない」が42.0%と最も多く、次いで「理解が深まってきているとは思わない」が20.9%となっています。
- ◇障害者の暮らしよいまちづくりに必要なこととしては、「相談できる窓口設置など相談体制」が40.4%、「サービス利用の手続きの簡素化」が25.1%、「保健・医療・福祉サービスの充実」が23.8%、「行政からの福祉に関する情報提供」が23.5%と上位に挙げられています。

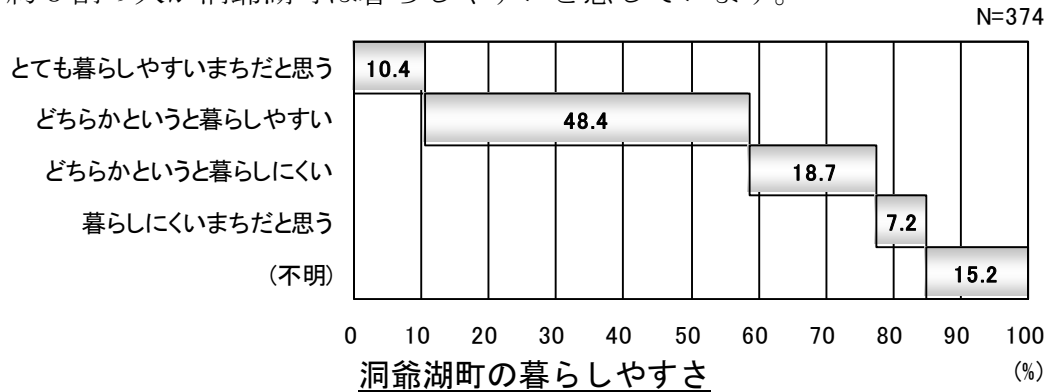
N=374



障害者の暮らしやすいまちづくりに必要なこと

◇約6割の人は地域の人に支えられていると感じており、また、障害者が積極的に地域・社会に参加していくため大切なこととして「参加しやすいように配慮すること」を43.0%の人が挙げ、次いで「障害者自身の積極性」を40.4%の人が挙げています。

◇約6割の人が洞爺湖町は暮らしやすいと感じています。



◇希望する暮らし方は、「家族と一緒に暮らしたい」が50.5%で、次の「障害のある人が入所する施設など」の8.3%を大きく上回っています。

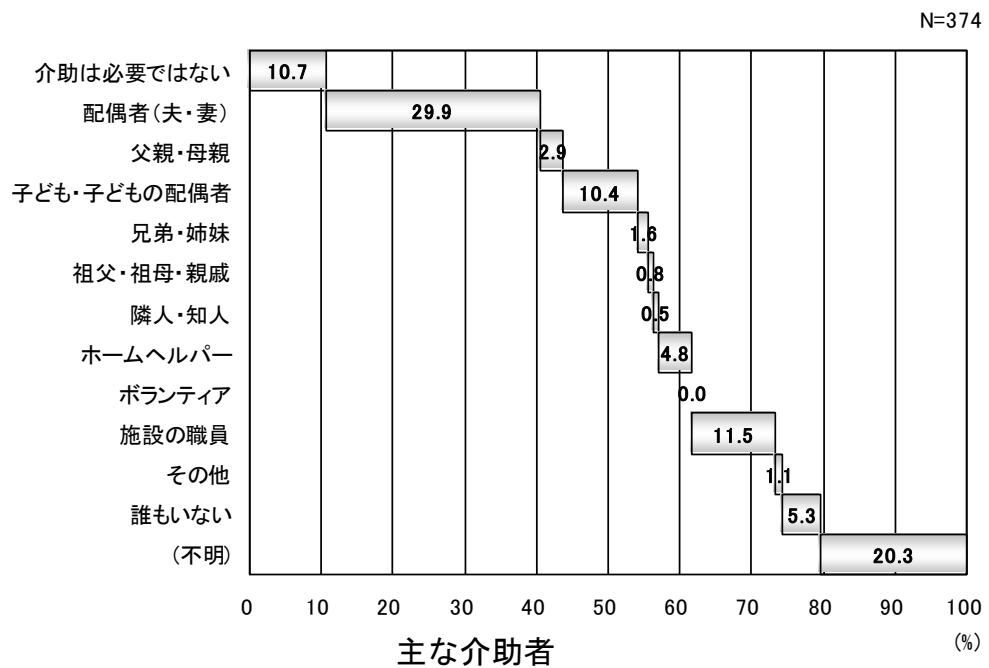
(8) 保育・教育について

◇幼稚園・保育所・学校へ通園や通学をしている人はアンケート回答者の4.3%と少数です。

◇保育・学校教育に望むこととしては、「理解を深め能力や障害に合う指導」が22.5%で最も多くなっています。

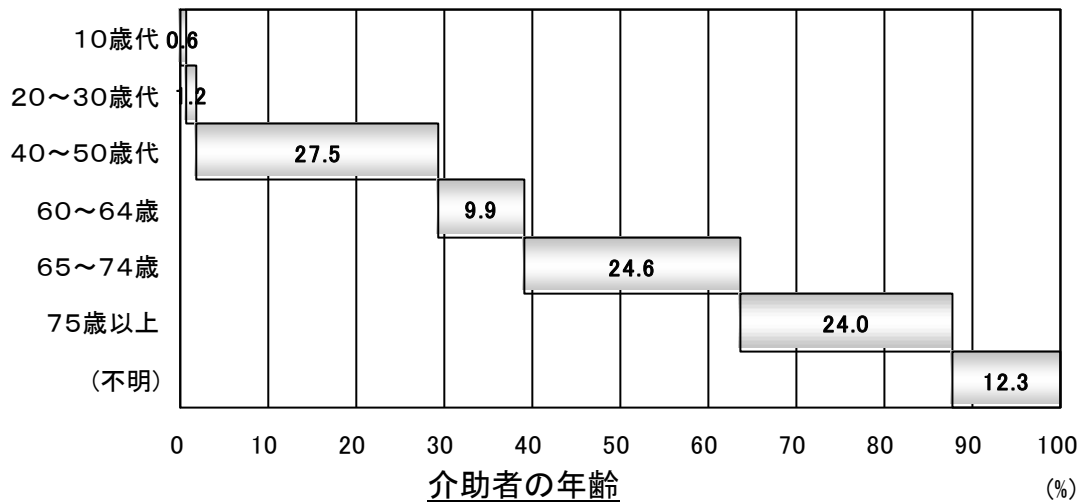
(9) 介助の状況について

◇主な介助者としては「配偶者(夫・妻)」が29.9%で最も多くなっています。



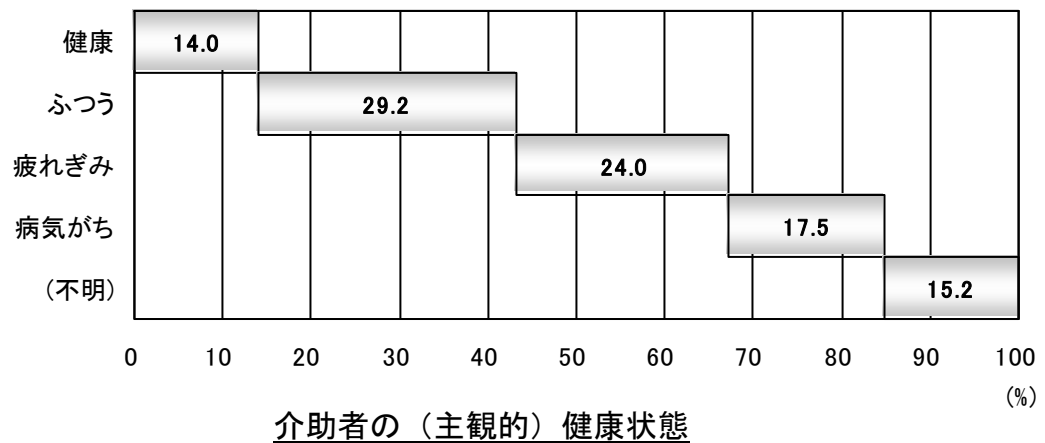
◇介助者は、女性が55.0%で男性が31.6%、65歳以上の高齢者が48.6%を占めています。

N=171



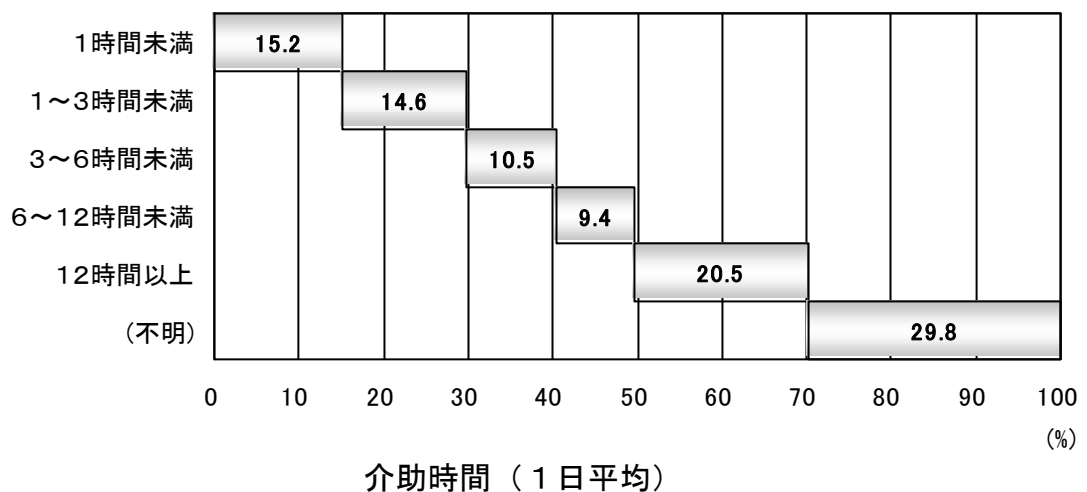
◇「健康」な介助者は14.0%に過ぎず、「疲れぎみ」または「病気がち」が4割以上となっています。

N=171

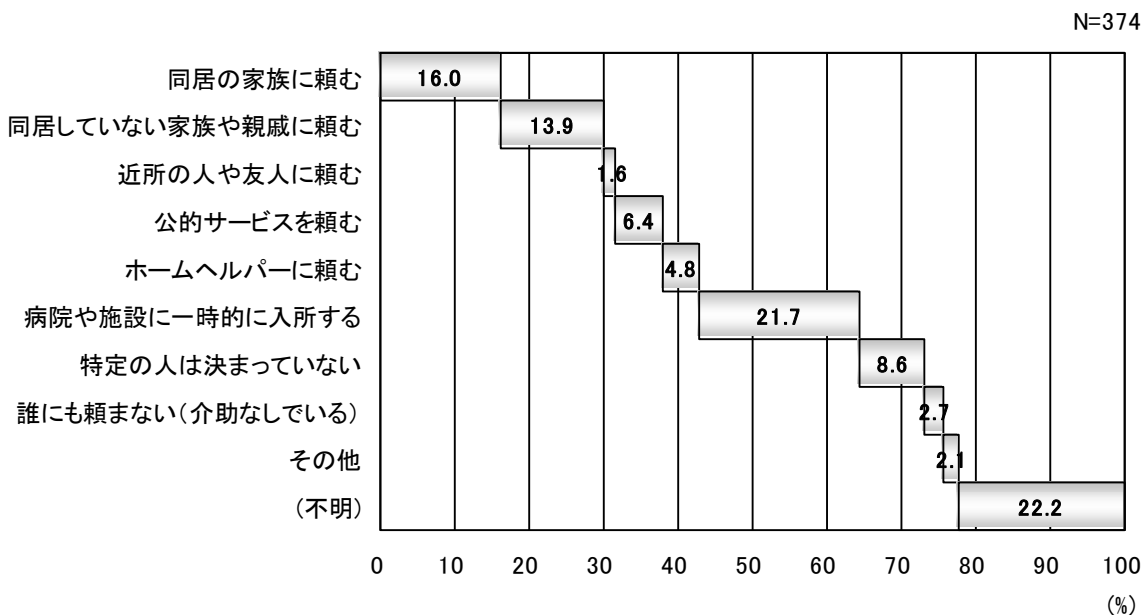


◇3割の介助者が1日に平均「6時間以上」介助・見守りをしています。

N=171

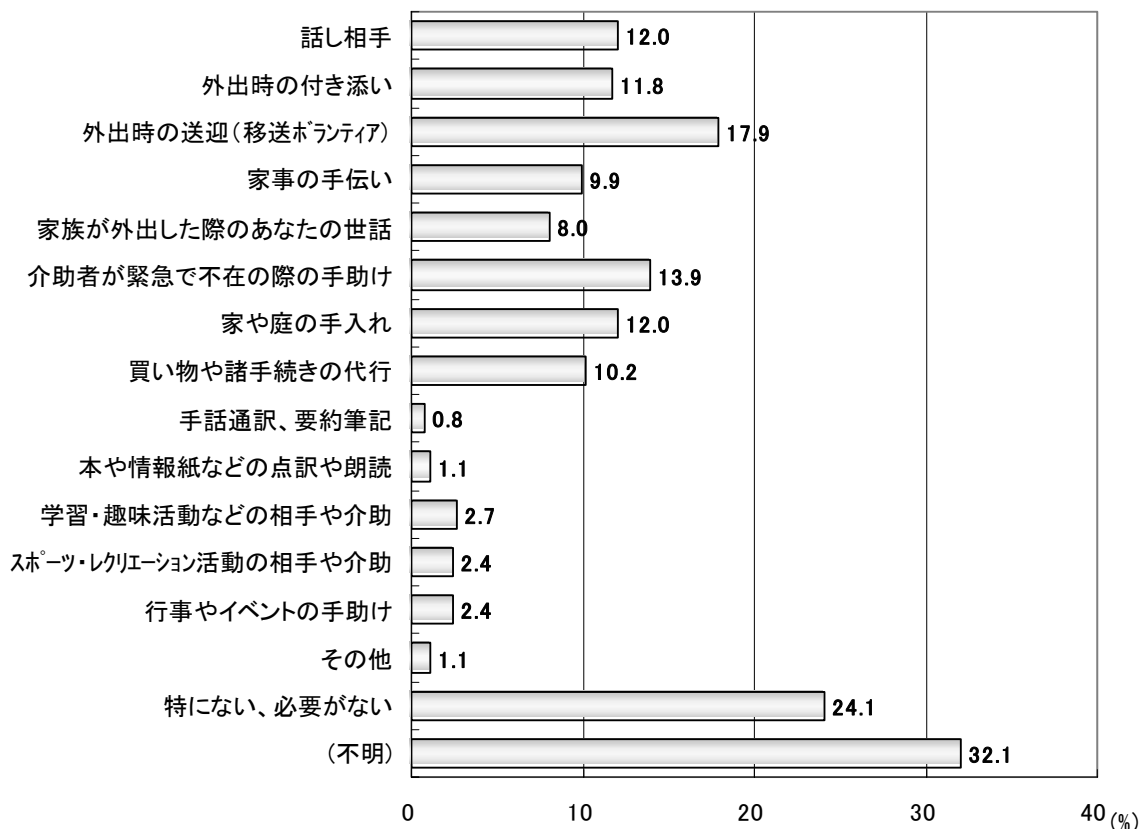


- ◇介助者の54.4%は、仕事を持っていません。
- ◇主な介助者が介助できないケースでの対応については、「病院や施設に一時的に入所する」が21.7%、「同居の家族に頼む」が16.0%となっています。



主な介助者が介助できない場合の対応

- ◇ボランティアに頼んでいる支援や頼みたい支援は「特にない、必要がない」が24.1%で最も多く、頼んでいる支援や頼みたい支援の中では「外出時の送迎(移送ボランティア)」が17.9%と最も多くなっています。



ボランティアに頼んでいる支援や頼みたい支援

3. 障害者関連団体等の現状

(1) 障害者関連団体

町内の主な障害者関連団体については、次のとおりです。

障害者関連団体の概況

名 称	概 要
胆振支庁地区身体障害者福祉協会 洞爺湖町支部	<p>[活動目的]</p> <p>◇身体障害者の自立と福祉の増進を図るとともに、各種福祉事業等への参加や親睦活動などを通じて障害者に対する正しい理解の促進と、障害者に関する各種制度等の普及促進などを図ることを目的とします。</p> <p>[会 員]</p> <p>◇会員数 49 人</p> <p>[主な活動]</p> <p>◇胆振地区身体障害者スポーツ大会の実施と参加</p> <p>◇3 町障害者研修・交流会の実施と参加</p> <p>◇支部研修事業（1 日視察研修旅行）</p> <p>◇町主催の福祉関係事業等への協力と参加</p>
洞爺湖町手をつなぐ育成会	<p>[活動目的]</p> <p>◇心身障害者（児）とその家族の福祉増進などを図ることなどを目的とします。</p> <p>[会 員]</p> <p>◇正会員（9 人：障害のある方の保護義務者）と賛助会員の合計 74 人</p> <p>[主な活動]</p> <p>◇会員の親睦事業</p> <p>◇自己啓発のための各種研修事業への参加</p> <p>◇施設入所者との交流事業参加（清水友愛の里の秋季運動会）</p> <p>◇通所授産施設「あすなろ」利用者との交流事業（新年会）</p> <p>◇授産活動の協力（しめ飾りの販売協力）など</p>

(2) 障害者関連施設

町内の主な障害者関連施設については、次のとおりです。

障害者関連施設の概況

名 称	概 要
知的障害者入所更生施設 「清水友愛の里」	[定 員] ◇入所定員 50 人（男 25 人、女 25 人） ◇通所定員 15 人 [町内利用者] ◇入所 7 人 ◇通所 3 人
知的障害者通所授産施設 「あすなろ」	[定 員] ◇33 人 ・ 本体施設 20 人 ・ 入江分場 6 人 ・ いちばんぼし分場 7 人 [町内利用者] ◇6 人
グループホーム・ケアホーム (母体施設：清水友愛の里)	○グループホーム [箇 所 数] 町内 6 箇所 [利 用 者] 26 人 [町内利用者] 9 人 ○ケアホーム [箇 所 数] 町内 5 箇所 [利 用 者] 27 人 [町内利用者] 5 人

4. 障害者を取り巻く課題

洞爺湖町における障害者を取り巻く現状やアンケート結果等から、次のとおり課題が整理されます。

(1) 地域生活への移行について

- ★障害者の8割は在宅での生活を行っていますが、知的障害者については半数以上が障害者施設やグループホームで生活しています。また、アンケートではケア付き住宅やグループホーム等の整備に対するニーズが高い結果となっていますが、町内には11箇所ของกลุ่มホームが整備されており、入所希望者への対応体制は概ね整っています。
- ★地域で安心して暮らせるためにも、新しい制度体系の中での地域生活支援事業を充実させ、年齢や障害種別等にかかわらず、身近に必要なサービスを受けながら暮らせる地域づくりが必要です。

(2) 福祉サービスについて

- ★福祉サービスについて、相談支援、居宅介護、住宅改修費助成等へのニーズが比較的高くなっています。
- ★1日の平均介助時間が12時間を超える介助者が20.5%もいることなどを背景に、介助者の約4割は疲労や病気がちといった身体・健康上の問題を抱えています。また、半数近くが高齢者であることを踏まえ、障害者本人だけでなく、障害者を支える介助者（その多くは親などの家族）に対するレスパイト（休息）事業や介助者同士の交流の場の創設といった施策の検討も課題のひとつです。
- ★障害者に配慮したまちづくりや利用しやすい施設づくりも重要です。

(3) 就労について

- ★障害者の17.9%は就労していますが、収入が少ないことに不満を持っている人も多くみられます。また、新制度の下で就労移行支援や就労継続支援の充実による障害者の自立を促進するとともに、障害者に対する就労環境の改善がこれまで以上に重要になってきています。

(4) 相談支援について

- ★今後の暮らし方としては、障害者の半数以上は家族との在宅の暮らしを望んでいます。こうした在宅での生活・介助のために、居宅サービスの確保・充実

はもとより、相談支援事業の充実によりサービス等の質の向上を図っていく必要があります。

- ★約6割の障害者が洞爺湖町は暮らしやすいと考えていますが、より暮らしやすいまちになるために、相談体制、サービスの利用手続きの簡素化、情報提供が強く求められています。
- ★福祉サービスに関する情報は、町役場が大きな情報源となっていることから、今後は新しい制度やサービスに関する、地域に密着した情報コンテンツの充実と情報媒体の工夫等が課題となります。
- ★多くの障害者が、通院の際などに「病院」で相談するほか、様々な機関で相談をしていることが分かります。このことから「病院」をはじめとする各種相談機関との連携を図り、障害者がサービスの選択などを自ら行うことができるように、相談システムの充実に努めることが重要です。町は総合的な相談支援の役割を担い、適切なサービスの提供や情報の発信・苦情の処理等に努めるとともに、サービス利用者の権利擁護を推進していきます。また、アンケート結果では「相談した機関はない」という回答が24.9%を占めることから、「どのようなときにどのような機関があるのか」などの基本的な情報を集約し、障害者や家族に対して分かりやすく提供するなどの配慮に努めます。

(5) 障害者の暮らしよいまちづくり

- ★障害者の4人に1人は差別や偏見を感じることもあり、障害者にとってはまだ地域や社会参加への理解が深まってきているとは感じられないようです。ノーマライゼーションや地域福祉の観点から住民の福祉意識の向上を図っていくとともに、障害者自身が社会参加に向けて積極的に活動できるような環境づくりが重要です。
- ★障害者の多くは大規模災害時に対する何らかの不安を抱えています。このことから「地域防災計画」に沿って、障害者の安全確保に努めるとともに、防災に関する情報提供の充実が求められます。
- ★本町は洞爺湖温泉を擁するなど、道南エリアを代表する観光地のひとつです。障害者施策の推進にあたっては、こうした観点から、町内に住む障害者だけでなく、町を訪れるすべての障害者への配慮が求められています。